

令和3年度 附属練習船勢水丸業務報告

前川 陽一・中村 亨

附属練習船勢水丸船長・一等航海士

1. 令和3年度附属練習船勢水丸運航概要

令和3年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症拡大防止に伴い、前年に引き続き様々な制限のもとに運航計画を策定し、感染防止対策を徹底しながら航海を実施した。乗船者を個室対応とするため最大7人とする制限のなか、実習航海では航海日数を例年より短くし、回数を増やすことで履修申告者全員の乗船を確保しなければならず、航海回数は増加した。結果的には、教育航海32航海、研究航海2航海、その他の航海1航海の合計35航海、計124日の航海を実施した。

教育航海は236人、研究航海は12人が乗船した(すべての乗船人数について海事教員は除く)。毎年、松阪港停泊中に1年生全員が見学するフィールドサイエンスセンター体験演習についてはガイダンスも含めて、生物資源活動タイムを利用してZoomによるオンラインで実施した。また、全学を対象にした教育航海(環境科学～海に親しむ～)についても、教養教育院の方針に従い3日間にわたりオンラインで実施した。

教育航海の中での教育関係共同利用拠点事業では、昨年度に継続申請が認可され3期目2年目に突入した。昨年度は残念ながらコロナウイルス感染予防のため学外の利用を一切中止として、単独航海および公開実習航海の受け入れはなかったが、今年度は本学の実習航海と同様に、感染防止対策を徹底しながら受け入れを再開した。単独航海では四日市大学環境情報学部、名古屋大学大学院環境学研究科、中部大学応用生

物学部の3大学の実習を実施した(京都大学総合人間学部および北里大学海洋生命科学部の2大学は実施を辞退した)。また、新たに京大大学院理学研究科の実習を試行で実施し、来年度からの本格的な実施に向けて準備を進めている。公開実習航海では、乗船人数に限られるなか、本学の実習学生の乗船で定員一杯となる航海が多かったが、紀伊黒潮流域圏航海実習で、皇学館大学および京都大学の学生2人が本学の学生とともに所定の実習を行って単位認定を受ける特別聴講学生として乗船した。

研究航海は、教育航海の実施で日程が確保しにくい状況が続いているが、2航海を実施した。乗船人数や調査海域に限られるなか、有意義な調査活動が実施できたと思う。

その他の航海については、毎年実施している高大連携事業のハイスクールフィールドワークなども実施できなかった。幸運にも台風避難航海の実施はなかった。

検査工事・一般修繕工事は、一般入札により令和3年1月4日から令和3年2月2日(工事期間1月5日～2月1日)まで大阪市西成区の株式会社ダイゾー木津川工場で実施した。竣工13年目の第2種中間検査(A)および一般修繕工事を行い、教育航海や研究航海に支障が出ないように注意して検査・整備工事を行った。約1ヵ月間の大阪市滞在中であったが、昨年と同様に、保健管理センター確認のもと滞在中の注意事項を船内に掲示した上で、普段より一層意識を持って感染予防対策の徹底を乗組員に呼びか

けた。

令和3年度の航海実績については、以下の表を参照していただきたい。併せて、本船での新型コロナウイルス感染症に対する対策などは、

生物資源学研究科紀要に「練習船勢水丸における新型コロナウイルス感染防止対策」として投稿したのでこちらも参照して頂きたい。

令和3年度 航海実績

実習航海

航海番号	種別	航 海 名	期 間	日数	乗船者数 (女性)	備 考
2101	公開	水産生物学実習①	R3/4/7~9	3	7 (3)	
2102	公開	水産生物学実習②	4/14~16	3	7 (4)	停泊実習も航海日数に含む
2103	学内	博士後期課程特別調査研究	5/11	1	14 (4)	
2105	公開	海洋環境調査実習①	5/22~23	2	7 (2)	
2106	公開	海洋環境調査実習②	5/26~27	2	7 (2)	
2107	公開	海洋環境調査実習③	5/29~30	2	7 (5)	
2109	学外	(単)名古屋大学大学院環境学研究科①	7/7~9	3	7 (0)	名古屋大7名
2110	学外	(単(試行航海))京都大学理学研究科	7/27~30	4	7 (1)	京都大学7名 前泊も航海日数に含む
2111	学外	(単)四日市大環境科学部①	8/5~6	2	7 (1)	四日市大7名
2112	公開	海洋総合航海実習(第1班)	8/17~20	4	7 (2)	
2113	公開	海洋総合航海実習(第2班)	8/24~27	4	7 (3)	
2141	学外	(単)四日市大環境科学部②	8/30~31	2	7 (2)	四日市大7名
2116	公開	海洋総合航海実習(第3班)	9/7~10	4	7 (2)	
2117	公開	海洋総合航海実習(第4班)	9/14~17	4	7 (2)	
2118	公開	海洋環境調査実習④	10/1~2	2	7 (1)	
2119	公開	海洋生物資源調査実習(第1班)	10/5~8	4	7 (2)	
2120	公開	海洋生物資源調査実習(第2班)	10/12~15	4	8 (3)	
2121	公開	紀伊黒潮流域航海実習Ⅰ	10/19	1	9 (6)	皇學館大学1名
2122	公開	紀伊黒潮流域航海実習Ⅱ	10/21	1	9 (6)	京都大学1名
2123	学内	海洋地球科学乗船実習(第1班)	10/26~27	2	5 (2)	
2124	学内	海洋地球科学乗船実習(第2班)	10/28~29	2	6 (3)	
2126	学外	(単)名古屋大学大学院環境学研究科②	11/10~12	3	8 (1)	名古屋大8名
2127	学内	海洋地球科学乗船実習(第3班)	11/16~17	2	6 (1)	
2128	学内	海洋地球科学乗船実習(第4班)	11/18~19	2	6 (1)	
2130	学内	海洋地球科学乗船実習(第5班)	11/30~12/1	2	6 (1)	
2132	学外	(単(試行航海))京都大学理学研究科	12/6~9	4	7 (0)	京都大学7名 前泊も航海日数に含む
2134	学外	(単)中部大学応用生物学部環境生物学セミナー	R4/2/16~18	3	7 (0)	中部大学7名
2135	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第1班)	2/24~26	3	8 (2)	
2136	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第2班)	3/2~4	3	8 (3)	
2137	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第3班)	3/7~9	3	8 (3)	
2138	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第4班)	3/10~12	3	8 (2)	
2139	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第5班)	3/16~18	3	8 (2)	
小計				87	236 (72)	

研究航海

航海番号	航海名	期 間	日数	乗船者数 (女性)	主な研究目的
2108	研究航海（宮崎）	R3／6／7～10	4	4（3）	熊野灘（串本沖合海域～志摩半島沖海域）におけるアオリイカ生息海域検証及び深海生物の採集並びに生息環境調査
2129	研究航海（本船教員と京都大教員）	11／24～26	3	8（2）	底生性動物の分類に関する研究 海洋生物学の採集方法の習得
小計			7	12（5）	

その他（一般公開，避難，ドック）

航海番号	航海名	期 間	日数	乗船者数 (女性)	備 考
	第二種中間検査（A）工事及び一般修繕工事	R4／1／4～2／2	30		ダイザー（株）木津川工場
小計			30	0	
合計			124	248（77）	

2. 令和3年度 全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会報告

（1）はじめに

全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会（以下，分科会とする）とは，練習船を持つ次に掲げる水産・海洋系大学（校）を会員として組織され，練習船等の運営並びに教育研究調査などに関する諸問題を協議し，練習船における教育研究調査の充実発展を図るとともに，練習船相互間の連絡を緊密にして管理運営の改善を促進することを目的として，年に一回，分科会に組織する各大学（校）の持ち回りで開催されるものである。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度も長崎大学が当番校となりオンライン形式で実施された。日程は，令和3年12月27日（金）で，各大学（校）から練習船の船長や機関長をはじめ，練習船乗組員，関係教職員などが参加して行われた。今年度は議題の内容により高等専門学校からオブザーバーとしての参加があった。本学から，前川船長，前機関長，中村一航士，奥村二航士，高野三航士，附属教育研究施設事務室から，野呂事務室長，練習船担当事務葛西氏が参加した。

はじめに長崎大学水産学部萩原学部長より挨拶があった。

議長に同大学長崎丸森井船長が選出され，続けて各大学（校），高等専門学校の代表者の挨拶の後，議事が進行された。来年度の分科会については審議事項の議題5のとおり，北海道大学が当番校となり開催されることとなった。分科会終了後の情報交換会は実施されなかった。審議事項や報告事項については以下の通りである。

（2）分科会議事録

日 時：令和3年12月27日（金）13:30～17:00

会 場：オンライン会議

当番校：長崎大学

参加大学（校）：北海道大学，東京海洋大学，三重大学，広島大学，鹿児島大学，水産大学校，富山高等専門学校（オブザーバー），鳥羽商船高等専門学校（オブザーバー）

【審議事項】

議題1. STCW基本訓練について（北海道大）

北海道大学から練習船のSTCW基本訓練参加状況と，その受講機関に関しての情報交換の

希望があり、各大学から訓練への参加状況や対応策が挙げられた。

議題2. 極海コード取得について(北海道大学)

北海道大学から極海コード取得について各大学に情報交換が求められた。特に東京海洋大学から詳細な情報が提供された。

議題3. 軽石の被害防止に向けた情報交換について(長崎大学)

長崎大学から南西諸島方面に大量の軽石が漂着している問題で、今後は関東近海への漂着も想定されているなか、船舶に対する被害も予想されることから、各大学から目撃情報なども含めて情報交換を求められた。

議題4. 水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会と商船高専の災害支援ネットワークの連携について(東京海洋大学)

大学と高等専門学校の練習船災害ネットワークの連携については、過去に文科省専門教育課から指示があり、

一昨年の分科会から新型コロナウイルスの影響で先送りになっていた。今回、改めて発議されて富山高専より概要について説明があり、各校からの意見をもとに協議を進めた。現在の全国水産海洋系学部等の取決めにおける災害支援ネットワークの連携に関する練習船同士のネットワークの拡大という形で落とし込むこととし、来年度の全国水産系学部協議会における分科会報告にてこれを報告し承認を得ることになった。

議題5. 次回当番校及び役員について(長崎大学)

長崎大学から提案があり、以下のとおり次回当番校、幹事が決定した。
次回当番校：北海道大学

開催時期：令和5年3月24日(金) Zoomによるオンラインで開催

会長：北海道大学 亀井船長(おしよ丸)

副会長：北海道大学 坂岡船長(うしお丸)

副会長：鹿児島大学 幅野船長(かごしま丸)

(各校幹事)

北海道大学 坂岡船長(うしお丸)

東京海洋大学 宮崎船長(神鷹丸)

三重大 前川船長(勢水丸)

広島大学 中口船長(豊潮丸)

水産大学校 富賀見船長(天鷹丸)

鹿児島大学 幅野船長(かごしま丸)

長崎大学 青島船長(鶴洋丸)

議題6. その他

特になし

その後、報告事項に移った。

【報告事項】

報告1. 第20回全国水産・海洋系学部等協議会について(東京海洋大学)

東京海洋大学宮崎船長より、令和3年8月5日～20日開催(メール審議)第20回全国水産・海洋系学部等協議会について、報告があった。

報告2. 長崎大学練習船でのコロナ対策(長崎大学)

長崎大学森井船長より練習船の運航に関する協議の頻度や、実際の実習の様子や事前に行った検査体制等について報告がなされた。

報告3～6. 各大学練習船でのコロナ対策(北海道大, 広島大, 水大校, 東京海洋大)

各大学(校)より、事前配布の資料を基にそれぞれの練習船で行っているコロナ対策について報告があった。

報告3. うしお丸（239トン）代船建造進捗状況（北海道大学）

北海道大学坂岡船長より、代船うしお丸が新潟造船で建造開始されていること、機関の特徴や使用燃料、乗組員室やトイレ等に女性用区画を設置すること、水中ドローンを保有することなどの説明があり、10月から部材の切出しに入っていることなどの説明があった。

報告4. その他

特になし

3. その他

（1）練習船運営委員会および共同利用拠点支援室会議について

昨年度は以下の日程で運営委員会および支援室会議が実施され、練習船運営や教育関係共同利用拠点としての取り組みになどについて審議・報告がなされた。

【練習船運営委員会】

- 第1回 6月2日（メール会議）
- 第2回 11月19日（Zoom会議）
- 第3回 12月8日（メール会議）
- 第4回 12月10日（メール会議）
- 第5回 12月10日（メール会議）
- 第6回 12月28日（メール会議）
- 第7回 1月27日（メール会議）
- 第8回 2月28日（メール会議）

【教育関係共同利用拠点支援室会議】

- 第1回 8月2日
- 第2回 9月29日（メール会議）
- 第3回 3月8日（メール会議）

（2）情報発信について

リニューアルしたホームページの改訂に加えて、一昨年に開始した本船の公式FBページ

（<https://www.facebook.com/seisumaru/>）の更新を可能な限り実施し、情報発信を積極的に行うようにした。

（3）観測データ提供について

外洋域航走中の流向流速などの観測データを第四管区海上保安本部海洋情報部 海洋調査課海象担当、三重県水産研究所、日本水路協会に提供しているが、令和3年度は8航海分のデータ提供を行うことができた。これに関してはこれからも各機関に提供できるように続けていきたいと思う。

これに加えて気象庁に気象観測データを提供する準備も進めている。気象庁への気象データ送信専用のソフトウェアの導入や送信用アドレスの入手設定などを進めており、来年度から試行的にデータ提供を行っていきたいと考えている。